

輝く卒業生たち

住友商事株式会社

宇野 弘将さん

Profile

京都府城陽市出身。東宇治高等学校から滋賀大学へ。2015年3月、経済学部ファイナンス学科卒業。同年4月、住友商事株式会社に入社。リスクマネジメント部に配属され、市場リスク管理を担当。2018年3月からシンガポール駐在。子会社に出向しアドミニストレーション業務に従事。2020年4月帰国。東京本社石油・LPG・海洋事業部で電力トレードビジネスの立ち上げに携わる。

石油ビジネスで途上国の経済基盤を強化し、日本経済の向上にも貢献したい

海外子会社に出向し組織の在り方を学ぶ

住友商事に入社後、市況商品を取り扱う部署に配属されました。市況商品とは原油や石油製品などのように需要と供給のバランスによって価格が変動する商品ですが、そのリスク管理が仕事でした。3年目にはシンガポールの子会社に出向。アドミニストレーション業務に従事し、与信管理などさらに広い枠組みの中で会社や組織の在り方を見直すなど、オントップで経営について学ぶことのできた貴重な2年間でした。4月に帰国し、東京本社で電力トレードビジネスの立ち上げ準備を進めています。

今(取材時)は新型コロナウイルスのために在宅勤務で、お客さまにご挨拶するのも思うに任せない不自由さはあるものの、以前の部署と関わりが深く、社員同士は顔見知りでコミュニケーションはとれていることから大きな影響はありません。

滋賀大で学んだことが活きる日々

大学時代はサークルにも部活にも属さず、宮西ゼミでの活動がすべてでした。「頭の体育会」と言われるほどゼミの勉強が忙しかったので彦根に下宿しました。宮西ゼミは縦のつながりも強く、今でも年1回のOB会に出席するのを楽しみにして



います。滋賀大から住友商事に入社したのは38年ぶりだったそうで、企業からはゼミや学生時代の学びに対する高評価をいただき、後輩もあとに続いています。滋賀大で学んだことが活きていると、社会に出てから日々実感しています。ゼミでの学びはファイナンスの金融手法を用いた企業価値評価など、与信管理や市況商品管理のためのリスクマネジメント業務に直結しています。

住友商事を志望したのは石油に対する強いこだわりがあったからでした。宮西ゼミはグローバルな問題意識を持って社会課題を解決することを目指すゼミだったので、その考え方に触発され、3回生を終えた後、米国のロサンゼルスに留学し、そこからさらにニューヨークと南アフリカでインターンシップと、ボランティア

ア経験を積みました。その時発展途上国の経済基盤を支え、より強くするのに必要なものは何かと自問自答し、出した答えが石油ビジネスでした。それに従事することで母国日本の経済に対しても貢献できると考えたのです。

広い視野を持ち一歩外へ踏み出して

滋賀大は狭くて小さなコミュニティです。居心地はとても良いのですが、その中に甘んじていると、チャンスを無駄にすることもあります。日本の地域経済に貢献するのは大事なことですが、それだけではなく広い視野を持って一歩外へ出てみることで、本当に必要な何かが見えてくると思います。

社会福祉法人共生シンフォニー
くれおカレッジ

中西 彩乃さん

Profile

大阪桐蔭高校出身。滋賀大学教育学部学校教育教員養成課程理科専修。2017年3月卒業。同年4月に教員となるが、2019年3月に退職し、同年4月「社会福祉法人共生シンフォニー くれおカレッジ」に入社。障がい者の生活・学習支援に携わる。在学中は漕艇部(ボート部)のマネージャー、現在はパラボートの団体に所属し、ボートを漕ぐ。

滋賀大の恩師や友人に支えられ、教育から福祉の現場へ、両者の架け橋になれるよう、今自分にできることをしたい

障がい者支援の理念に共感し転職

小学生の時、母が教員採用試験の勉強を始め、教員になりました。母の話を聞くうちに私も大きくなったら先生になりたいと思い、高校時代の担任のすすめもあって滋賀大学に進学しました。採用試験に合格して滋賀県で教員になりましたが、指導の面で行き詰まり、少し距離をおくのもいいかもしれないと思って、周囲からはさんざん反対されましたが思い切って退職し、知人の紹介で知った「くれおカレッジ」に転職したのです。

くれおカレッジでは高校や特別支援学校を卒業した軽度の知的障害や身体障害、発達障害などをもった方々が、大学のよう4年間自立訓練と就労支援を受けることで、社会人としての力を育んでいきます。

障がい者だからこそモラトリアムな時間や場所が必要ではないかという理念に

共感し、何か得るものがあるのではと思って違う世界に飛び込んでみました。

ボートと勉学に明け暮れた学生時代

在学中はボート部のマネージャーをしながら勉学に励みました。琵琶湖の御殿浜で眠い目をこすりながら早朝から練習し、何度も昇る朝日を眺めたのを覚えています。夜遅くなるとボート部の合宿所に泊まりましたが、年季の入った木造の建物なので、もう少しきれいにしてもらえるとうれしいですね(笑)。

ゼミの教官は加納先生でした。常にあたかく接してくださって、退職する時も相談に乗っていただくなど大変お世話になりました。加納ゼミは学外でのイベントにも積極的で、ボードゲームを使ったワークショップを行うなど、とてもアクティブ。新型コロナウイルスはパンデミックとみなされましたが、卒論で私が扱ったテーマ



もパンデミック。ボードゲームを使ってどうしたらパンデミックを食い止められるかというワークショップをしたり、ボードゲームでどんな学びが得られたのかを動画を撮ったりしてアクティブラーニングについてまとめました。

滋賀大での教員を福祉に活かす

転職して1年が経ち、気持ちにもだいぶゆとりが出て障がい者の方への接し方も変わりました。教員時代の経験や授業のつくrikatも活かせるし、加納先生が「教員はファシリテーター。答えを出すのは子ども達」とおっしゃられたことがとても役立っています。

在学中は楽しそうなことにはどんどん積極的に飛び込んでいったらいいと思います。だめだと思ったら逃げてみてもいいし…教育学部卒だからといって教員しか道がない訳ではない。選択肢の幅は広いと思います。

